

2017年度 第2四半期 決算説明会

2017年11月20日
タツタ電線株式会社

**本資料における将来の予測等に関する各記述は当社が現時点で入手可能な情報に基づく判断や仮定によるものであり、リスク及び不確実性が含まれております。
したがって実際の業績等は、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。**

本資料に関するお問い合わせ先

タツタ電線株式会社

経営企画部

TEL:06-6721-3011 FAX:06-6726-2300

<http://www.tatsuta.co.jp/>

1. **2017年度第2四半期(上半期)決算概要**
2. **2017年度業績予想**
3. **中期計画進捗状況**

1. 2017年度第2四半期(上半期)決算概要

1-1 2017年度上半期決算および年度予想

(単位:百万円)

	2016年度			2017年度 今回予想			2017年度 前回予想
	上期	下期	年度	上期実績	下期予想	年度予想	
売上高	24,414	24,699	49,114	27,271	27,228	54,500	53,000
営業利益	2,127	2,159	4,286	3,133	1,666	4,800	4,400
(営業利益率)	(8.7%)	(8.7%)	(8.7%)	(11.5%)	(6.1%)	(8.8%)	(8.3%)
経常利益	2,140	2,228	4,368	3,145	1,654	4,800	4,300
(税率)			23.9%			27.7%	29.1%
当期純利益	1,562	1,762	3,324	2,461	1,038	3,500	3,200
一株当たり純利益(円)	24.49	28.30	52.79	39.84	16.81	56.65	51.79
一株当たり配当(円)	6.00	6.00	12.00	7.00	8.00	15.00	14.00
銅建値(千円/トン)	544	664	604	709	750	729	650

1-2 上半期決算および年度予想(要点)

(上半期決算)

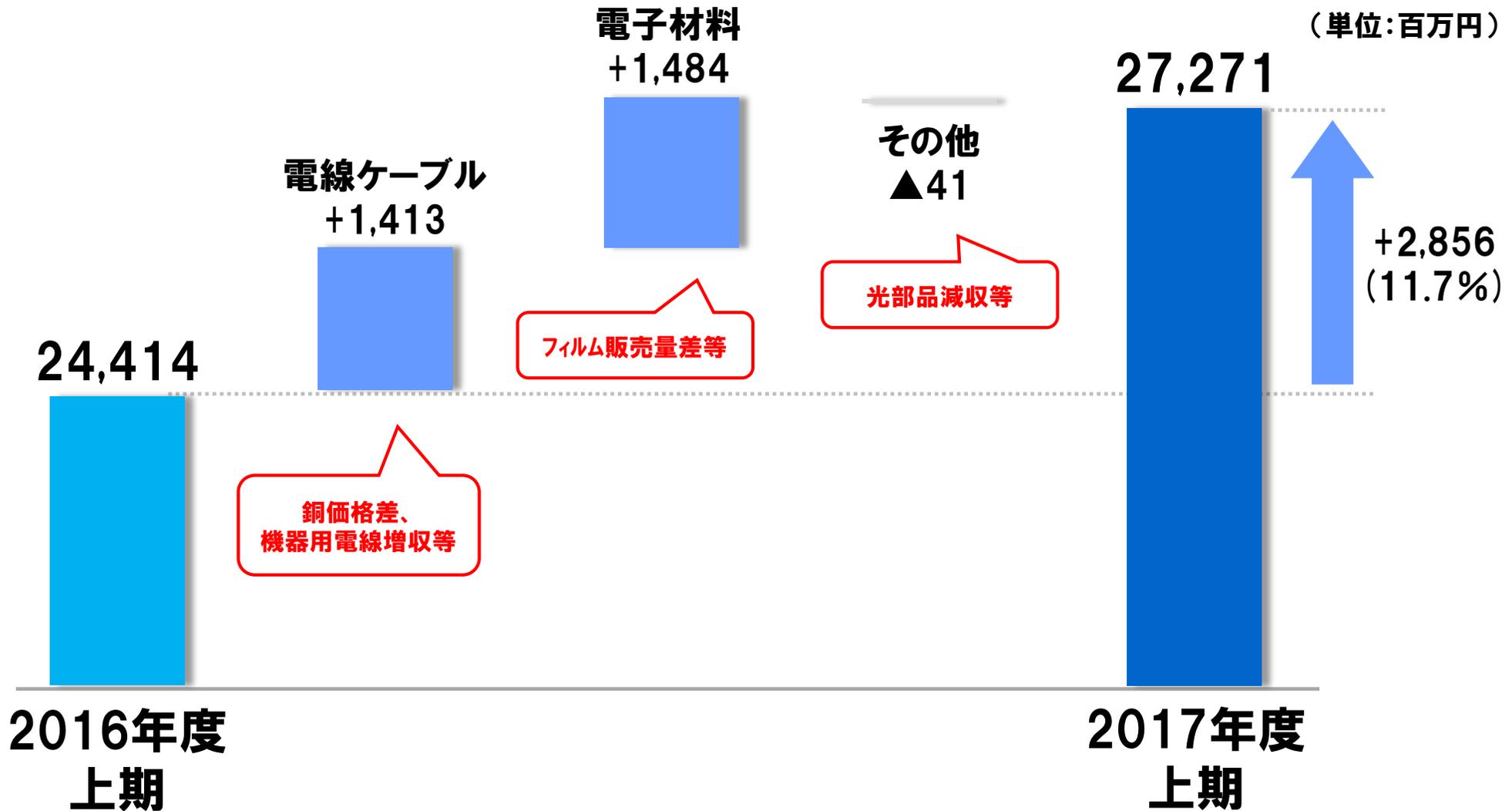
- 売上高は「銅価上昇」、「フィルム増販」を主因に、対前期、対前回予想とも増収。
- 営業利益は「フィルム増販」の影響が大きく、対前期、対前回予想とも増益。

(年度見通し)

- 売上高、営業利益は「上半期におけるフィルム増販」を主因に、対前期、対前回予想とも増収増益見通し。
→ 年度売上高および年度利益予想を引き上げ

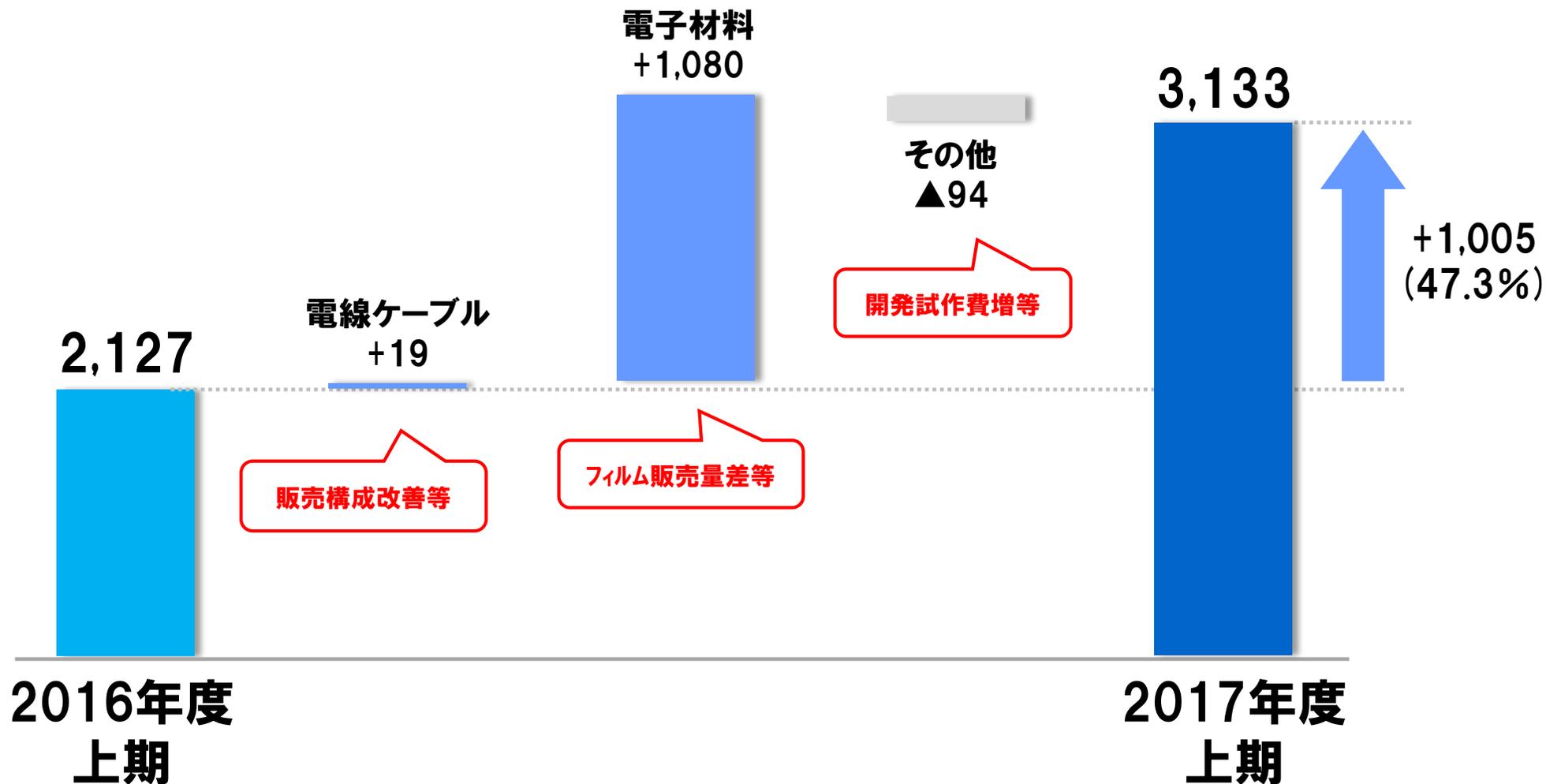
*「前回予想」は2017年7月26日に公表したもの

1-3 売上高増減(対前期)



1-4 営業利益増減(対前期)

(単位:百万円)



1-5 貸借対照表

(単位:百万円)

	2017年 3月末	2017年 9月末	増減	備考
流動資産	32,258	35,604	3,345	売上債権(期末休日影響 含み)・棚卸資産増等
固定資産	14,887	15,189	301	
資産計	47,145	50,793	3,647	
流動負債	6,571	8,146	1,575	仕入債務増等
固定負債	2,421	2,368	△52	
負債計	8,992	10,515	1,522	
純資産計	38,153	40,278	2,124	利益剰余金増等
自己資本比率	80.9%	79.3%	△1.6%	

1-6 キャッシュフロー計算書

(単位:百万円)

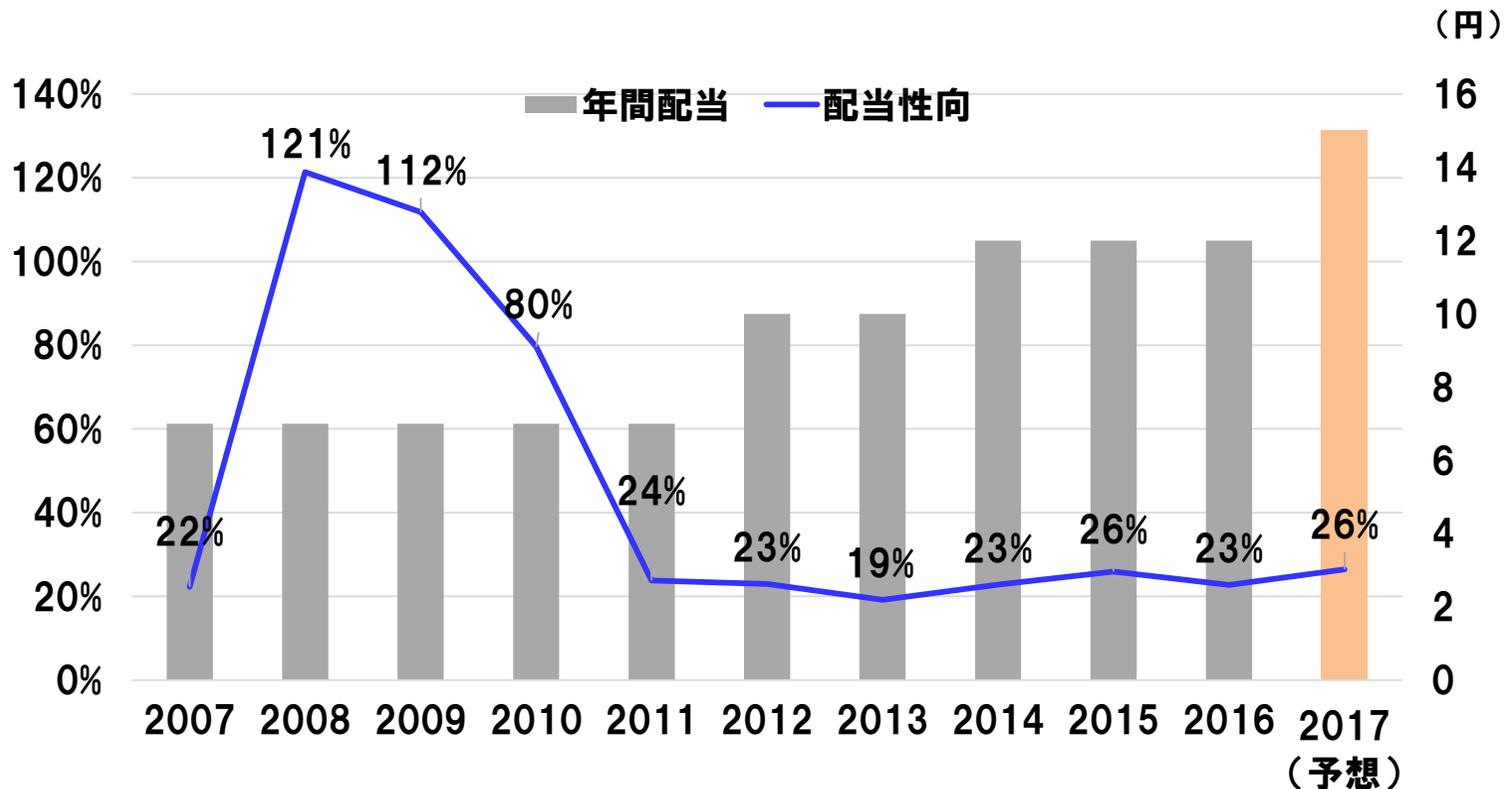
	2017上期 実績	備考
税金等調整前当期純利益	3,286	
その他	△1,507	売上債権(期末休日影響 含み)・棚卸資産増等
営業CF計	1,779	
設備投資	△1,122	電線基盤強化設備等
その他	△282	
投資CF計	△1,404	
財務CF計	△393	配当支出等
CF合計	△18	
(減価償却)	(791)	

1-7 株主配当

配当性向30%を目安としつつ、安定的な配当を継続。

各年度の配当等は、業績動向、設備投資の見直し等も総合的に勘案しつつ決定。

- 2017年度中間配当は2017年10月開催の取締役会で7円配当を決議(予定どおり)
- 2017年度期末予想を8円に修正(1円増額、年間15円配当)



2. 2017年度業績予想

2-1 2017年度業績予想

(単位:百万円)

	前回予想			今回予想		
	上期予想	下期予想	年度予想	上期実績	下期予想	年度予想
売上高	27,100	25,900	53,000	27,271	27,228	54,500
(営業利益率)	(9.6%)	(6.9%)	(8.3%)	(11.5%)	(6.1%)	(8.8%)
営業利益	2,600	1,800	4,400	3,133	1,666	4,800
(ROA)	-	-	(9.1%)	-	-	(9.9%)
経常利益	2,600	1,700	4,300	3,145	1,654	4,800
(ROE)	-	-	(8.3%)	-	-	(8.8%)
当期純利益	2,000	1,200	3,200	2,461	1,038	3,500

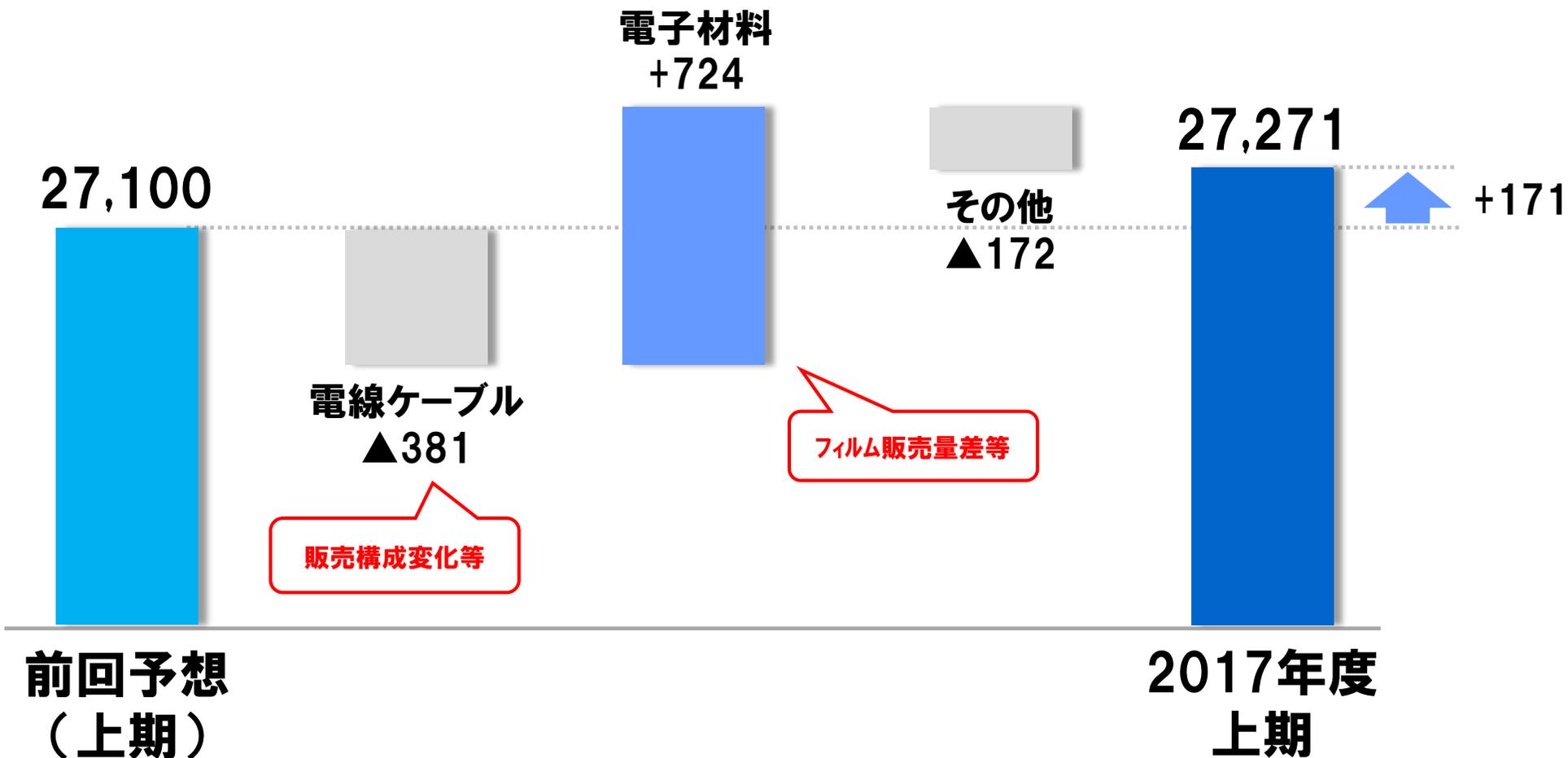
2-2 セグメント別売上高および営業利益

(単位:百万円)

	前回予想			今回予想		
	上期予想	下期予想	年度予想	上期実績	下期予想	年度予想
電線ケーブル	15,500	16,500	32,000	15,119	17,080	32,200
電子材料	10,700	8,400	19,100	11,424	8,975	20,400
その他	900	1,000	1,900	728	1,171	1,900
売上高	27,100	25,900	53,000	27,271	27,228	54,500
電線ケーブル	500	700	1,200	483	716	1,200
電子材料	2,500	1,300	3,800	3,036	1,263	4,300
その他	△400	△200	△600	△385	△314	△700
営業利益	2,600	1,800	4,400	3,133	1,666	4,800

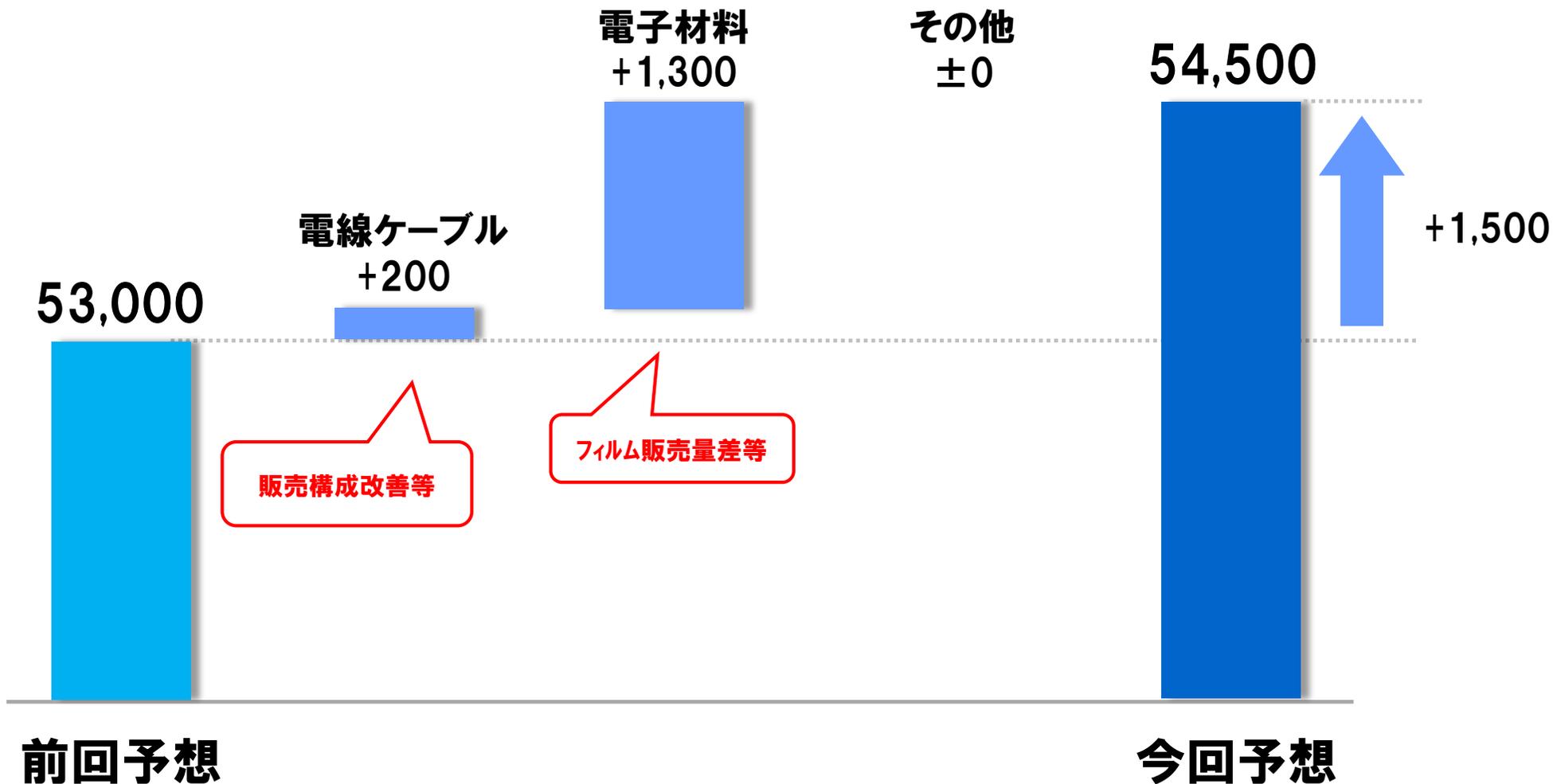
2-3 売上高増減(上半期、対前回予想)

(単位:百万円)



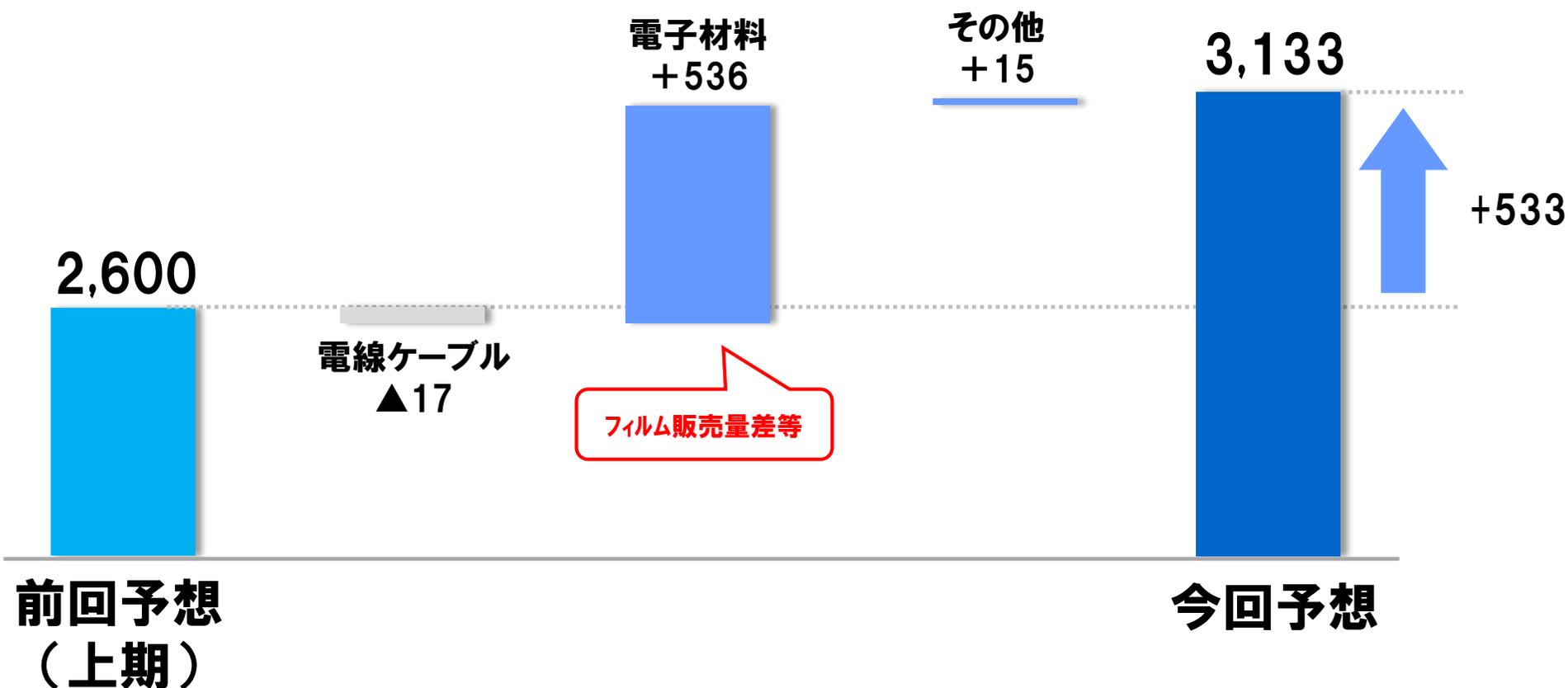
2-4 売上高増減(年度、対前回予想)

(単位:百万円)



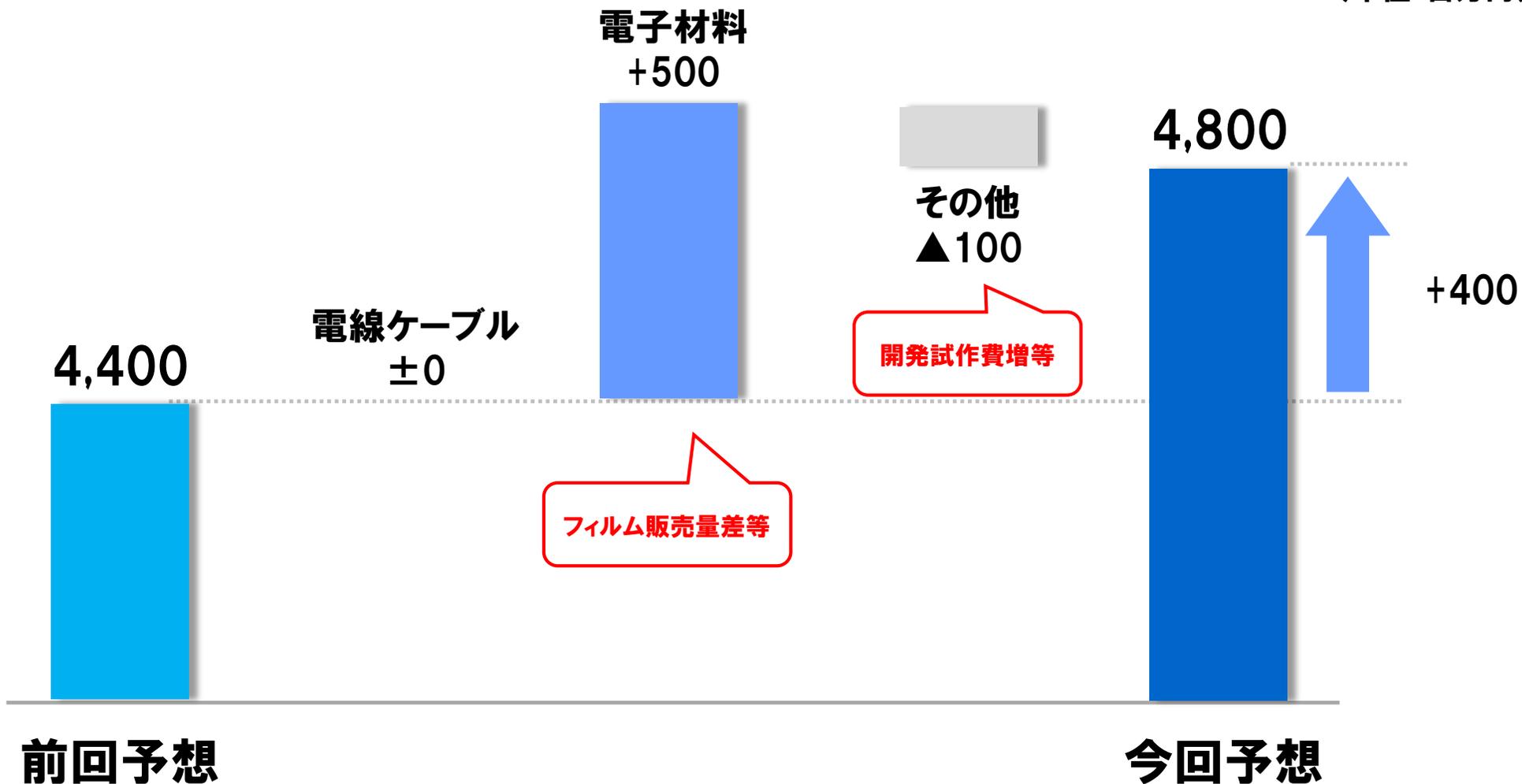
2-5 営業利益増減(上半期、対前回予想)

(単位:百万円)

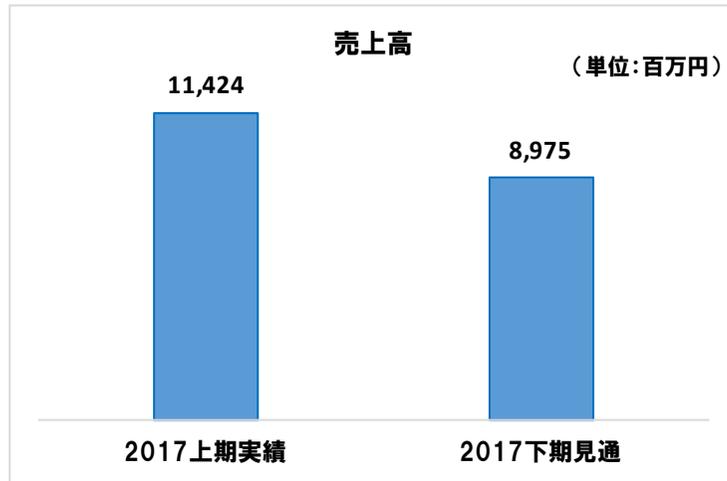


2-6 営業利益増減(年度、対前回予想)

(単位:百万円)



2-7 2017年度下期見通しについて(電子材料)



(2017年上期業績の特徴)

- フィルム製品の販売について、需要期におけるスマートフォン新規モデル向け等の需要が例年に比べ早く立上り、過去最高水準(量)で推移
- 一部採用部位の増加もあるが、材料先行発注の増等の一時的要因も多く含まれているものと想定



(2017年下期業績特記事項)

- フィルム不需要期における販売量減
- 上期一時的要因の調整
- 次世代製品開発に向けての各種試作等の費用増

2-8 フリーキャッシュフロー、設備投資

(単位:百万円)

	2017上期 実績	2017年度 今回予想	2017年度 中期計画
営業キャッシュフロー	1,779	3,372	3,200
設備投資(支出)	△1,122	△5,785	△7,600
フリーキャッシュフロー	656	△2,413	△4,400
(参考:減価償却)	(791)	(1,729)	(1,900)

(2017年度の主な投資項目)

- 通信電線事業基盤強化投資等: 7億円
- 機器用電線事業成長投資等: 8億円
- 医療機器部品・材料事業開発諸投資: 2億円
- 機能性材料事業(フィルム等)
周辺事業開発および市場対応投資等: 5億円
- 既存インフラ整備(耐震対応)等: 3億円
- 全社留保枠支出: 32億円

*2017-19中計期間用

3. 中期計画進捗状況

3-1 2017年度業績予想

(単位:百万円)

	2017 中期計画	2017 今回予想	2018 中期計画	2019 中期計画
売上高	52,500	54,500	55,000	58,000
(営業利益率)	(8.4%)	(8.8%)	(8.5%)	(9.3%)
営業利益	4,400	4,800	4,700	5,400
(ROA)	(8.9%)	(9.9%)	(9.0%)	(9.6%)
経常利益	4,300	4,800	4,600	5,200
(ROE)	(7.7%)	(8.8%)	(7.9%)	(8.3%)
当期純利益	3,000	3,500	3,200	3,600

3-2 セグメント別売上高および営業利益

(単位:百万円)

	2017 中期計画	2017 今回予想	増減	2018 中期計画	2019 中期計画
電線ケーブル	32,000	32,200	+200	33,500	35,000
電子材料	18,600	20,400	+1,800	19,300	20,300
その他	1,900	1,900	-	2,200	2,700
売上高	52,500	54,500	+2,000	55,000	58,000
電線ケーブル	1,200	1,200	-	1,500	1,800
電子材料	3,700	4,300	+600	3,700	3,800
その他	△ 500	△ 700	△ 200	△ 500	△ 200
営業利益	4,400	4,800	+400	4,700	5,400

3-3 2017-19中期計画基本方針

2025長期ビジョン目標

- タツタは、電線・電子材料関連のフロンティアを開拓して、ニッチトップのサプライヤーとなり、独創的な先端部品・素材を供給する。
- 2025年度には、高い収益率を維持しつつ、現状の1桁上の規模(売上高1,000億円、営業利益100億円)を併せ持つ。

2025に向けたロードマップ

期 間	第1次中計期間（17-19）	第2次中計期間（20-22）	第3次中計期間（23-25）
課 題	基盤整備期間	新製品量産化期間	新製品増産・収益貢献期間
目標営業利益	19年度 50億円	22年度 70億円	25年度 100億円

中計課題

- 既存事業の収益底上げ
- 大型投資効果の着実な実現
- 新規分野・商品の事業化促進
- 積極的設備投融資の継続

2017-2019年度 設備投資計画(概要)

①通信電線事業基盤強化投資等:	10億円
②機器用電線事業成長投資等:	16億円
③医療機器部品・材料事業開発諸投資:	10億円
④機能性材料事業(フィルム等) 周辺事業開発および市場対応投資等:	20億円
⑤既存インフラ整備(耐震対応)等:	34億円
⑥留保枠:	120億円

3-4 2017-19中期計画事業課題

○電線ケーブルセグメント

- 【利益追求】
 - ・通信電線事業(インフラ用途)の効率化継続および一層の販売構成改善
 - ・機器用電線事業(国内、子会社含み)の一層の収益基盤強化、シナジー効果の追及
- 【中長期育成】
 - ・海外機器用電線事業の基盤確立および本格販売立上げ

○電子材料セグメント

- 【成長追求】
 - ・ペースト製品新規用途のデファクトスタンダード化、周辺用途への採用拡大
- 【利益追求】
 - ・フィルム事業のシェア維持と収益性確保
 - ・ファインワイヤ事業のグローバル化と国内市場での拡販

○その他セグメント

- 【成長追求】
 - ・医療機器部品・材料事業の製品ラインナップ拡大および販売立上げ
- 【利益追求】
 - ・機器システム製品、光部品、環境分析事業の収益維持・拡大

3-5 事業課題進捗状況(電線ケーブル)

セグメント総合評価：○

- ・ 2017年度セグメント営業利益12億円(計画並み)達成見込み

インフラ用途電線の収益力強化：○

- ・ 直需製品の拡販等販売構成改善を推進中。
- ・ 合理化投資を含め各種事業効率化も予定どおり推進。

機器用電線事業の基盤強化、海外事業収支立上げ：△

- ・ 国内、海外とも基盤強化を推進中。
- ・ 海外(中国)販売も徐々に立上り。次年度以降の拡販に注力。

3-6 事業課題進捗状況(電子材料)

セグメント総合評価:◎

- ・ 新たな部位への採用等の機会を捉え機能性フィルムの販売が想定を上回る高水準で推移。計画を上回る増益達成。

フィルム事業のシェア堅持と収益性確保:◎

- ・ 既存顧客シェアを着実に堅持。中国ブランド主要モデルにも採用浸透。
- ・ 海外サポート拠点強化、BCMS体制の構築およびその他競合対策を計画どおり推進。
- ・ 以上施策により、新たな部位への採用等の機会を着実に捕捉。

その他の事業開発課題等:○

- ・ ペースト製品については半導体パッケージ、プリント配線板事業周辺分野での試作対応を継続展開中。
- ・ FWは国内販売環境激化の一方、マレーシアの黒字基調定着。

3-7 事業課題進捗状況(その他)

医療部材製品のラインナップ拡大、販売立上げ:○

- ・ 高機能チューブ類、シングルユース電極類、センシング機器類等の製品化に向けての試作対応を継続展開中。

その他利益追求事業の収益拡大・維持:△

- ・ 計測機器向け光部品、ビル向け等機器システム製品販売が軟調推移。

参考資料

タツタグループについて

タツタ電線株式会社

通信電線事業

機器用電線事業

機能性材料事業

ファインワイヤ事業

機器システム製品事業

光部品事業

環境分析事業

中国電線工業(株)

立井電線(株)

常州拓自达恰依納電線
有限公司

(常州タツタ)

タツタウエルフェアサービス(株)

TATSUTA ELECTRONIC
MATERIALS MALAYSIA SDN. BHD.

(TEMM)

TATSUTA USA, INC.

上海拓自达商貿有限公司

(株)タツタ環境分析センター



*セグメント区分

電線ケーブル

電子材料

その他